

幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策について

1 概要

量の見込みとは、幼児期の教育・保育と地域子ども・子育て支援事業に係る、将来的に見込まれる利用者数等の必要量を指します。

市町村が子ども・子育て支援事業計画を策定する際は、「潜在的ニーズを含めて量の見込みを把握し、それに対応する確保方策を定める」という基本的な考え方を踏まえ、幼児期の教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の量の見込みを算出し、その見込みに沿った供給体制の確保方策を掲げる必要があります。

この量の見込みの算出は、国から示されている標準的な計算方法を参考にしつつ、将来の人口推計の結果や、各種事業の利用状況及び利用意向等を勘案して行いました。

なお、本市の子ども・子育て支援事業計画（第3期米子市子ども・子育て支援事業計画）は、「米子市こども計画「よなごっこ未来計画」（仮称）の第5章に該当します。

2 量の見込みの計算方法について

幼児期の教育・保育と地域子ども・子育て支援事業（全16事業）について、ニーズ調査の結果、それぞれの利用実績、人口推移等を勘案し、下記の4種類の計算方法のうち1つを採用して、量の見込みを算出しました。

- A 最新の利用実績等を参考に、今後の人口推移の見込みと連動するものとして算出する方法

$$\boxed{\text{令和}n\text{年度の見込み}} = \boxed{\text{令和}5\text{年度の実績}} \times \left(\frac{\boxed{\text{令和}n\text{年度の対象児童人口}}}{\boxed{\text{令和}5\text{年度の対象児童人口}}} \right)$$

- B ニーズ調査等の結果、潜在的なニーズの存在が明らかになったものについて、潜在的なニーズの分を加算して算出する方法

$$\boxed{\text{令和}n\text{年度の見込み}} = \boxed{\text{令和}n\text{年度の対象児童人口}} \times \boxed{\text{ニーズ調査における利用割合}}$$

- C 人口推移との連動が弱いもののうち、施設数の拡充や、広報の充実によってニーズの向上が見込まれるもの等、事業展開の見通し等を踏まえ、上昇傾向の数値をあてはめる方法

- D 人口推移との連動が弱いもののうち、上記の計算方法が馴染まない場合に、事業展開の見通し等を踏まえ、計算に依らず固定値等をあてはめる方法

3 各事業の量の見込み・確保方策の計算方法

幼児期の教育・保育と地域子ども・子育て支援事業（全 16 事業）について、それぞれの量の見込みを算出する方法は以下のとおりとしました。

項番	事業名	算出方法
2(1)	幼児期の教育・保育	A
3(1)	利用者支援事業	D
3(2)	時間外保育事業	A
3(3)	放課後児童健全育成事業	B
3(4)ア	短期入所生活援助事業（ショートステイ）	D
3(4)イ	夜間養護等事業（トワイライトステイ）	D
3(5)	乳児家庭全戸訪問事業	A
3(6)	養育支援訪問事業	D
3(7)	地域子育て支援拠点事業	B
3(8)ア	幼稚園における在園児を対象とした一時預かり（預かり保育）	A
3(8)イ	保育所等での一時預かり	B
3(9)	病児・病後児保育事業	B
3(10)	ファミリー・サポート・センター事業	B
3(11)	妊婦健診事業	A
3(12)	産後ケア事業	C
3(13)	子育て世帯訪問支援事業	C
3(14)	児童育成支援拠点事業	D
3(15)	親子関係形成支援事業	C
3(16)	妊婦等包括相談支援事業	A